

photo:Carla Franchesca

路地裏音舞

In an alley

ろじうらおんぶ

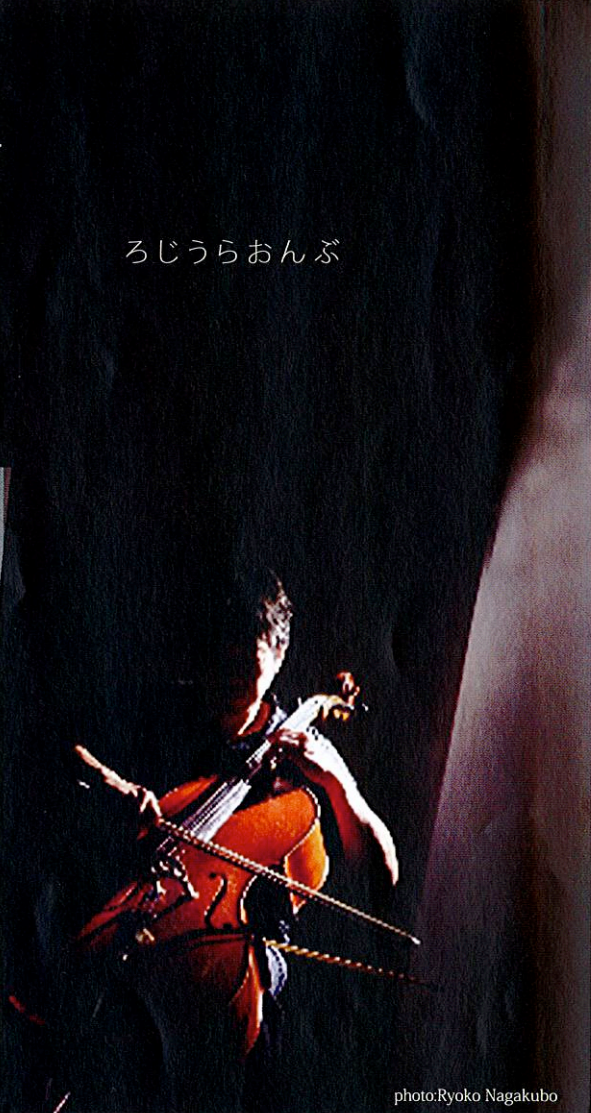


photo:Ryoko Nagakubo

入間川正美

Cello

Masami Irumagawa

×

井上みちる

Butoh

Michiru Inoue

×

神田

Site specific

Kanda

2013.5/25sat. 19:00pm start

Fee:¥2,000 (with after party!!) Venue:Gallery Surge



Masami IRUMAGAWA

入間川正美

チェロという楽器を用いながら西洋の伝統的な音楽観から離れて、ゆらぎや氣息のようなすなやかな変化を連ね、たゆたうような音楽を形作るミュージシャン。

1989年より神田ギャラリーサージでチェロの即興演奏をはじめ。以降、現代美術・実験演劇との共演を重ね、1998年よりソロシリーズ「セロの即興もしくは非越境的独奏」を高田馬場プロト・シアターにて開始し、現在も八丁堀・七針で継続する。また、同タイトルCD、CD-Rをリリースしている。2004年演劇ユニットLens(佐藤照+渡部美保)と共にニューヨークに遠征、演劇公演だけでなくソロ演奏も好評を得る。それ以降、国内外の音楽家との共演を重ね、現在、新井陽子とのデュオ、千野秀一・佐々木柁とのトリオ、竹田賢一・原田淳とのトリオなどで新たな可能性を模索している。



Michiru INOUE

井上みちる

1999年舞踏に出逢い初舞台を踏む。2000年テルプシコール舞踏新人シリーズ「花売り娘」以後、ソロ活動開始。翌年ソロ公演「とどのまつり」開催、舞踊批評家協会新人賞受賞。ダンス白州参加などを経て2006年よりタタラ祭りを共同開催などソロ活動を軸に音楽家、美術家、ダンサーとの共演多数。2010年より「おどりすと」シリーズ始動。二度とない「場」の創出を目指して、多摩川是政橋、美学校屋上などで本番を行う。2012年春よりNYにて活動開始。Bushwick Open Studios2012参加。白石民生&Cammissa Burhausとの共演など即興演奏との共演を軸に舞踏の身体性を模索している。武蔵野美術大学日本画科卒業。

Venue
場

Gallery Surge

ギャラリーサージ

料金:2,000円

※終演後に飲み物を用意しております

予約:会場のスペースの都合上、なるべくご予約いただけますと助かります。

●080-4326-0125(irumagawa)

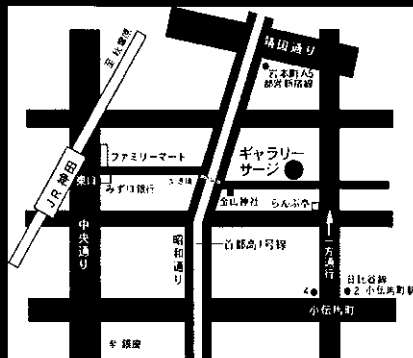
●michirooming@yahoo.co.jp(inoue)

協力:遠藤寿彦(回路派)

<読みかけの記録、あるいは唇の音楽>

入間川正美の演奏は、常に本人の意思で記録されている。書かれた音楽が、全体を俯瞰した上で、各部の役割を調整したり、再配分したりするのと同様、常に記録されたものが参照される演奏というのは、逆に作曲過程の記録になる。そして「録音されるものとしての音楽」「書かれるものとしての音楽」以上に俯瞰性が高いために、演奏自体が読み、編集する方法のひとつになる。(すでにご承知のように、これは1回のライブで収録された演奏を、ある意図のもとに16に区分し、配列し直したものである。おおよその順序は採録時の流れに従っているものの、演奏の記録ではない。われわれは西洋のコンポジションの一例をみているのである。) 各作品は大きく「種の動機」に依存している。和声的基盤をもつ5〜11音の音列(テーマ)を形成するものと、奏法・音色的展開を抱懐するものが、場合によって組み合わせられる。このうちのいくつかは、書かれた音楽でないにもかかわらず、それに極めて近い構成を示している。それはほとんど20世紀中葉様式によるカンツツといってもいい。ただし、選ばれた音列にテーマ性が強い場合もそれが9音を越えることは減多になく、和声リズム、ないし奏法的な展開に対するこだわりも感じさせない。いわば、基本的に完結せず、中断する音楽である。一方、聞き手との共通資源への言及は極力排除されており、マーティン・アルテナ(Bass)やハンク・ロバーツに代表される、デレク・ベイリー後のインプロヴァイザーに共通の関連さ、多様性はみられない。ただそのことによる閉塞や不自由の印象もなく、一種の祭則の縮み目が潮に時間の結束を切り開き、風のように変化しやすい音楽を生む稀な例といえる。それは例えば、1920年代のヴェーベルンやストラヴィンスキーを彷彿させる。このことは即興音楽がもともと持つ反動または先祖返りの傾向と切り離して考えることができない。即興演奏はある時代の音楽思考を反映するが、それが進歩や創造によるものではないからである。それは、書かれる音楽と演奏される音楽のずれ、ということではなく、起源と終末をもった歴史が、書かれたものの上にはかない、ということである。それゆえ、いかなる批判主義も、ついに演奏そのものに至ることはない。(小山博人ライナーより抜粋)

私が神田で広告代理店に勤めていた頃、日常的に神田に通っていたのだが、ある日、土曜日出勤のあとに訪れたギャラリーサージの界限はまるで普段私が知る神田と別の顔を見せていた。妙な静寂と場の持つ特色や個性の放棄感。平日には決して見られることのないその街の裏の顔はどちらが日常でどちらが非日常なのか…そんなのはどちらでもよろしかろうと焦ることなくたずんでおりました。こちらを「場」として長年挑まれている入間川氏に敬意を払いたく今回はこの街の片隅で今限り限りの劇場の創出を試みたいと思います。(井上みちる)



◆JR神田駅、都営新宿線若本町駅、東京メトロ日比谷線小伝馬町駅が最寄駅です。